

自覚こそ事故防止の第一歩

シルバー人材センターへの登録会員数が増えるのにつれて、事故件数も増加しています。全国シルバー人材センター連合会（全シ連）の調査によりますと、平成14年度中に発生した重篤事故（死亡及び入院6月以上）は、就業中のもの18件、就業途上のものも20件ありました。

安全操業については、センターは講習会・研修会での学習やパンフレットの配布を通じて呼びかけていきますが、基本は会員の皆さんの自覚にかかっています。つまり、事故から身を守るのは、一人ひとりが仕事を選ぶ時から安全は自分の問題として取り組む、「安全＝自己管理」の意識を持つことが大切なのです。

高齢者は豊富な知識や経験を持ち、判断力・統率力にも優れている人は多いのですが、身体的な機能の低下を無視することはできません。ある統計によりますと、20～24歳の身体機能の水準を100とした場合の55～59歳の平衡機能は48%以下、聴力は44%以下、薄明順応力は36%以下とあります。60歳以上のシルバー会員の機能はこれよりもっと低くなっている可能性は大です。

要は、会員の皆さんが自分の身体機能の低下を認識し、自覚して、“無理しない”ことが、事故防止の最善の策になります。

以下の事件事例は、全国シルバー人材センター連合会が分析した平成14年度の就業中の事故内容です。もって他山の石としてください。

植木剪定

- ① 剪定はさみを持ったまま三脚脚立とともに墜落し、側頭部にはさみが刺さった。（富山）
- ② 三脚脚立で剪定作業中、墜落。（愛知）
- ③ 三脚脚立の3段目から足を踏み外して墜落。（神奈川、大阪、香川）

樹木伐採

- ① のこぎりを使用して松の木を伐採中、伐採した木とともに墜落。（北海道）
- ② 倒れてきた木を避けようとして、山の斜面を25mほど滑落し、全身打撲。（福井）

草刈り

- ① 作業現場の下見中に足を滑らせ、2m下の水路に墜落。（青森）
- ② 河川土手天端部を大型刈払い機で除草中、方向転換のための後進操作を誤って転落し、身体の一部が機械の下敷きになる。（埼玉）

塗装

- ① 階段踊り場ではしごを移動中、バランスを崩して墜落。（埼玉）
- ② 家屋の屋根の塗装中、墜落。（愛知）

就業途上

軽トラックで帰宅途上、電柱に衝突。（新潟）その他全国各地で多数。